シリーズ 対馬ぐらしのススメ

対馬で暮らす移住者に聞きました！

岩間さんご家族

近年、人生の選択肢の一つとして地方移住の関心が高まっており、対馬にも毎年、多くの人が移住しています。生まれ育った故郷対馬へ帰る人、思い描いた暮らしを実現するために対馬を選ぶ人。様々な理由で対馬へ移住した人の目線は、対馬に住む私たちにとっても、新しい魅力を見つけるヒントになるかもしれません。

今回は、岩間雄平さん（Iターン）と糸瀬敬一さん（Uターン）にお話を伺いました。

収穫する野菜は無農薬にこだわっています

糸瀬さんご夫婦

上見坂公園で趣味のトランペットを吹いてみました

これまでのスキルを活かし、対馬暮らしをスタート

自然の恵みに囲まれた家での暮らし

岩間さんご家族が、対馬での新たな生活に選んだのは、ミカンやビワ、栗の木や畑に囲まれた、厳原町久和地区の空き家でした。

「この家に引っ越してきた時は、ススキや雑草で覆われていたんですよ。」今年9月から久和地区で生活を始めた岩間さんは、元陸上自衛官という経歴を持ち、8月まで対馬駐屯地で勤務していました。そんな岩間さんにとって、荒れた土地を整備することは、これまでのスキルを活かす絶好の舞台。草刈りや家の中の片付けなどの力仕事を難なくこなし、今は、刈り取った雑草を使った無農薬無肥料（自然農）の畑づくりや、空き家の持ち主が育てていたミカンの収穫など、新天地での生活をスタートさせています。

東北出身の岩間さん夫妻、宮城県内の駐屯地で勤務していた岩間さんの願いは、離島で子育てをすること、念願かなっての対馬勤務でした。

夫婦が目指す「自然と共に生活できる暮らし」

「対馬は、食をはじめ、色々なことが自分たちでできる土台があります。対馬に住んでいる人も、農業や漁業、大工仕事までなんでもできる人が多いですしね。私たちは、常々そんな場所で暮らしたいと思っていました。自衛隊での暮らしも楽しかったけれど、対馬にはそれ以上の楽しみが待っていると思うと矢も楯もたまらず、対馬に飛び込みました。」そんな岩間さんが、対馬で仕事として始めたのがコーヒーの焙煎。

インドネシアで作られる深いコクがあるマンデリンは、城下町として深い歴史を持つ「Izuhara」と名付けた

数年前、いとこが淹れてくれたコーヒーに感動したことを機に、6年ほど前、趣味として始めました。

フェアトレード（途上国の製品を適正な価格で継続的に購入すること）で仕入れた世界各地のコーヒー豆を、注文が入ってから焙煎し、島内の飲食店や全国の個人へ売り出しています。

「その日の気温など天候によって、時間や火力などを細かく調整しながら焙煎するコーヒーは、産地や種類、焙煎の仕方によって味が変わります。コクや酸味、苦みなどの組み合わせはまるで、地域によって雰囲気が違う対馬の浦々のようです。」と話す岩間さん。売り出しているコーヒーには、その味や香りから連想する対馬の地名を付けています。「対馬には歴史や自然、文化などたくさんの魅力があります。そんな魅力をコーヒーをとおしてたくさんの人に知ってもらいたいと思い、地名を入れることを思いつきました。」

対馬を自分たちが理想とする暮らしができる場所にするため、一家の挑戦は始まったばかりです。

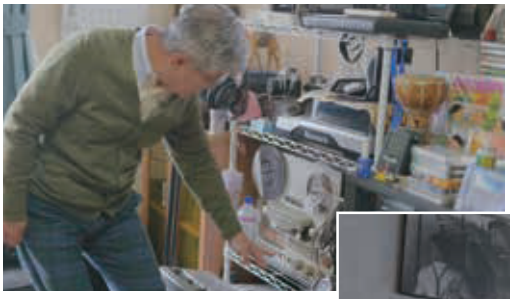
48年ぶりの対馬暮らし

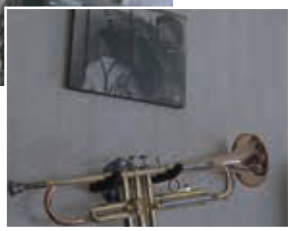
都会暮らしの先にあった対馬

糸瀬さんは、高校卒業後、東京で就職し生活していました。いつかは対馬に帰りたいとの思いから、定年や子どもの独立などを機に、東京出身の妻と二人、48年ぶりに対馬へと帰郷しました。「私が上京した頃に比べ、対馬の人は穏やかになった様な気がします。私たち夫婦が帰ってきた際も優しく迎え入れてくれました。」

武家屋敷だった頃の面影を残す厳原町中村地区の自宅には、糸瀬さんの思いのこもった一部屋が。東京での生活で集めたステレオデッキから流れる昭和の懐かしい音楽を聴きながら、高校時代に始めたトランペットやギターに触れる時間が楽しみの一つと話します。

「東京の友人からは、田舎に引っ込んだのだから暇だろうと言われるのですが、とんでもない。家事や趣味はもちろん、地域との関わりなど田舎の方がやることがたくさんあって忙しいんです。」





お気に入りの部屋で過ごす時間が楽しみの一つ。壁には高校の頃使っていたトランペットが飾られている

夫婦2人で楽しむ対馬の桜

同居する家族との距離感

実家で90代の母と暮らす糸瀬さん、家計をはじめ、生活習慣など別々にしていることも多いと話します。

「これまで別の生活を送ってきたわけですから、なんでもすぐに一緒にするというのは難しいと思います。同居した当初、家事の分担などでお互いギクシャクしたこともあったので、適度な距離感を持つことは大事だと感じました。」

知らなかった対馬に出会う日々

対馬のことをほとんど知らずに島を出た糸瀬さんにとって、対馬での生活は、新しい出会いに溢れています。対馬の広さは、面積だけの話ではないと、持ち前の行動力で積極的にチャレンジを続けています。

「浦島太郎状態の私にとって、地域の行事への参加も、もらった魚を捌くこと、家の手入れをすることも、何もかも新鮮で楽しみなことです。これからも、色々なことに自ら飛び込んでいく姿勢を大切にしたいと思います。」

たくさんの出会いに溢れた毎日、糸瀬さんは同世代をはじめ、多くの人をつなげることによって対馬を元気にしていきたいという目標を胸に、対馬での暮らしを楽しんでいます。

歴史を感じる自宅の門の前で

引き続き！ ＵＩターンが増えている対馬

対馬へUIターンで移住する人たちは、ここ数年、100人を超えています。

移住の理由として、Uターンの方では「対馬を離れてみて、対馬の良さを再認識したから」「家業を継ぐためや家族のことが気になる」などといった理由をあげ、Iターンの方では「島での暮らしに憧れていて、対馬が自分の思う条件に合った」「釣りが趣味で、魚が豊富な対馬で暮らしたい」「観光で来島した対馬に魅力を感じた」など様々です。

対馬市では、そんな移住を考えている方や、移住された方のサポートを行っています。

引越経費支援

市外からの荷物の運搬にかかる経費

※補助対象経費の3分の2以内

上限20万円

住宅借上初期費用支援

民間賃貸物件を借りる際の初期費用

※補助対象経費の一部

上限5万円

子育て世帯移住支援

中学生以下の子どもを扶養している世帯

2万円×中学生以下の子どもの人数

住宅家賃支援

民間賃貸物件を借りる際の家賃

※家賃月額の2分の1

上限3万円×3月分

奨学金返還支援補助金

高校・大学などにおける奨学金の返還額

年間上限24万円 5年間まで

ふるさと就職奨励補助金

学校卒業後2年以内の方で島内企業に就職して1年以上経過した方

10万円

ひとり親家庭移住支援補助金 就労奨励支援

中学生以下の子どもを扶養するひとり親家庭の方の就労を支援

※通算6か月以上就業した方

10万円

ひとり親家庭移住支援補助金 自動車購入費支援

中学生以下の子どもを扶養するひとり親家庭の方の自動車購入を支援

※購入金額の2分の1

上限30万円

結婚移住奨励補助金

婚姻届受理日前後1年以内に（夫婦または）夫婦のいずれかが市外から移住された方

5万円

移住の下見で来島する補助や、お試し住宅の提供、空き家バンクの整備なども行っています。

詳しくはこちら!

※各補助金には要件があります。詳しくはお問い合わせください

島外でも、しまぐらしに関するご相談をお受けしています

各地で行われる移住イベントなどで、移住する際の手続きや補助などのご相談をお受けしています。

また、対馬市が福岡で開催している移住相談のイベントでは、ハローワークや島内企業の担当者にも参加いただき、対馬での生活をスタートさせるためのサポートを行っています。

地方移住が特別でなくなった今、移住先に対馬を選んでもらうために対馬市では、島の魅力を最大限お伝えできるよう、様々な取り組みを行っていきます。

問い合わせ　地域づくり課内「しまぐらし応援室」　☎0920(53)6111